テーマ：植物　対象年齢：５歳児クラス

品川区立大井倉田保育園

テーマ設定の理由：年間を通して野菜の栽培を行い、野菜の生長に興味関心をもっている。野菜の苗や種からどんな植物ができるのか自分たちで調べ、特徴を理解し、様々な植物への関わりを深めるため。

★活動１：苗を植える

★活動のねらい

身近な自然や植物に親しみ、興味・関心を深める

★用意した環境

・野菜の苗、シャベル、野菜の図鑑
画用紙、ピグマックス

★活動内容

・野菜の苗の葉っぱを観察したり、図鑑で調べたりしてみんなで話し合い、何の野菜の苗なのか予想をたてた
・協力して苗を植え、予想した野菜を書いたネームプレートを作成した

★子どもたちの様子

・野菜の名前が分からないようにしてから、子どもたちに苗が届いたことを伝えて興味のある子どもから苗を観察できるようにした
・保育者が「何の苗だろう」と呟いたり、子どもたちと一緒に葉っぱに触れたり、匂いを嗅いだりした
・苗を植えた後に、みんなで集まって予想を共有する時間をつくった
・子どもたちは葉っぱの形に着目し、匂いを嗅いで確認していた。「ギザギザしているから〇〇じゃない？」「△△の匂いがするよ」等、友達と話しながら図鑑でも調べていた。それぞれが予想を伝えて話し合い、最終的な予想が決まっていた

★保育者の振り返りと気づき

・これまでの経験から、葉っぱの形や匂い等から大まかな予想を立てている子どもが多かった。いくつか図鑑を用意したことで、自分のタイミングで調べたり、実物と照らし合わせて確かめたりする時間を十分に確保できた。日々、世話をする中で予想は変化していくことが考えられるので、子どもたちの気づきや発言を受け止め、クラスで共有していきたい

★活動２：花の観察

★活動のねらい

見たり調べたりする中で、植物等の成長の変化や特徴に気づき、自然に関心をもって関わる

★用意した環境

・野菜や花の図鑑、ジョウロ

★活動内容

・花の形や葉っぱの形に注目しながら、栽培物の世話をした。
・栽培物の観察をすることで、咲いた花を図鑑で調べ、予想が違うことに気づいて変更した。

★子どもたちの様子

・当番活動を通して交代で水やりを行い、栽培物の世話をした。成長を楽しみにして、登園後に観察をする子どもがいた。きゅうり、ゴーヤの花が咲いていることに気づくと、他の栽培物はどうか？と全ての栽培物を確認している子どももいたので「明日は咲くかな」「まだ時間がかかるかな」等、日々の観察に興味や意欲をもてるような言葉をかけた。
・図鑑で調べた子どもたちが、写真と咲いている花を照らし合わせて他の友達に「予想が違う！」と説明していて、他の子どもたちも納得している様子だった。きゅうりとゴーヤは葉っぱの形がギザギザしていて似ているけど、花の色が違うから分かった」と自信をもって話していた。

★保育者の振り返りと気づき

・苗が育ち、花が咲いていることに気づいた子どもが友達に伝えると、みんなで喜んでいた。以前きゅうりを育てた経験から、花の色を見て予想が違うと気づき、それを確かめるために図鑑で調べる子どもがいた。写真を見せながら理由をつけて説明する姿から子どもたちが興味をもって自発的にすすめている様子が分かり、意欲を大切にしていきたいと改めて思った。

★活動３：夏野菜の収穫

★活動のねらい

野菜の収穫を喜び、五感を通して味や色、手触りなどの特徴を知り好奇心を深める

★用意した環境

・野菜や栽培の図鑑、はさみ、クレヨン、画用紙、収穫した野菜

★活動内容

・育ててきた夏野菜の収穫を行う。
・育ってきた夏野菜の食べごろを確認し、予想と合っていたか確かめた。
・収穫した夏野菜の絵を描いた。

★子どもたちの様子

・小さく実った野菜を見つけた子どもたちは、予想した野菜が合っていたことを喜び、もっと大きく育つことを楽しみにして世話をしていた。食べごろをみんなで相談したり、図鑑で調べたりして収穫をした。
・野菜に触れたときの感触や匂い等、子どもが感じたことや気づきに共感する言葉をかけたり、一緒に驚いたりして子どもの心情に寄り添い関わった。
・野菜に触れてじっくり観察し、ブツブツしている、同じ野菜でも１つずつ色や形が違う等の気づきがあったので、実際に野菜を見ながら絵を描いた。色の変化をグラデーションで表現したり、断面はどうなっているか見たりして、感じたことを表現していた。

★保育者の振り返りと気づき

・野菜が育っていることに気づくと、収穫を心待ちにしていた。収穫後、次はいつかなと次の収穫への期待につながっていたので、子どもたちの意欲を高められるような言葉かけが必要だと感じた。子どもの気づきや感じたことに寄り添い、疑問には「どうしてだろう」と一緒に考え、自分たちで調べようと思えるように、子どもの姿に合わせた言葉かけが大切だと感じた。

★活動４：さつまいもの収穫

★活動のねらい

身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、生活に取り入れようとする

★用意した環境

・シャベル、はさみ、はかり、画用紙、ペン

★活動内容

・自分で植えたさつまいもを収穫する。
・さつまいもの大きさを量って比べる。

★子どもたちの様子

・シャベルを使って土を掘り、自分でさつまいもを収穫した。さつまいもの匂いを嗅ぐと「いい匂いがする」「さつまいもの匂いだ」と、言っていた
・サイズの小さいものが多く、形もいろいろなものがあったので「どうして？」と疑問を友達と考え、「夏だから暑かったのかな」「水が多かったのかな」「日に当たらなかったからかな」等、話している子どもがいた
・大きさが違うことに着目していた子どもに、どうしたら大きさの違いが分かるか聞くと、重さを量って比べることになった。どれが大きいか予想をし、重さごとに並べた。八百屋さんのさつまいもを用意し、大きさや匂いの違いを比べると、保育園の方が形はバラバラだけどいい匂いがすると言っていた。「味は一緒かな？」と話し、食べることを楽しみにしていた。

★保育者の振り返りと気づき

・さつまいもの育ちが悪く、小さかったり形がいびつだったりしたが、なぜそうなったのか予想を言い合ったり、大きさを比べたりするきっかけになった。子どものどうしてだろう？と思う気持ちに寄り添い、解決する手立てを一緒に考え、見守ることで子どもたちの中での探究心が育ち、自分たちで考えてみよう、やってみようという姿につながっていくと感じた。